

〔写真解説〕 沈香木画箱（正倉院）縦28.0cm 横44.6cm 高14.6cm
沈香・象牙・黒檀・錫・金などをはめ込む木画の技法で文様を表わした箱。献納品をおさめるための献物箱であろう。床脚は紺牙の撥縷（紺色に染めた象牙に文様を表わしたもの）で装飾している。赤地に緑と縹で文様を表わしたうちばり（箱の内の裂）も美しい。

第49回 正倉院展

10月25日(土)～11月10日(月)

会期中無休

午前9時～午後5時

（入館は午後4時30分まで）

金曜日は午後8時まで開館

（入館は午後7時30分まで）

文化財指定制度100周年記念

特別陳列「春日信仰の美術」

11月29日(土)～12月21日(日)

平常展「仏教美術の名品」

11月29日(土)～12月21日(日)

無料観覧日 12月17日(水)

年末年始の休館

12月22日(月)～1月3日(土)

第49回 正倉院展

10月25日(土)～11月10日(月)

今年の「正倉院展」には、調度品・献物帳・古文書・^{はいしよく}佩飾品・染織品・楽器・年中行事品・仏具・遊戯具・工匠具・香・経典など、広い分野にわたる72件(15件が初公開)が公開されます。

このうち献物帳は、天平宝字2年(758)に、光明皇后が亡き父・藤原不比等の真跡屏風を大仏に献納した時の目録「^{ふじわらこうしんせきびょうぶ}藤原公真跡屏風帳」で、そこには「^{わらは}妾の珍財、これに過ぐるなし」と記されています。

今回は、香がまとまって出陳されるのが特色です。まず^{おうじゆこう}黄熟香。蘭奢待の名で天下に知られた香木です。「蘭奢待」の文字に「東大寺」の3文字が隠されているのがおわかりでしょうか。もうひとつ、有名な香木があります。^{ぜんせんこう}全浅香です。これは光明皇后が大仏に献納した聖武天皇遺愛の品々のなかに含まれていたもの。蘭奢待と全浅香は「^{らんじゃたい}兩種の御香」と称され、正倉院の香木を代表してきました。蘭奢待と全浅香が同時に^{ぜんせんこう}出陳されるのは初めてです。

このほか、桑の薄板を^{よせぎ}寄木ふうに貼り合わせ、側面には^{ばちる}撥鏤や螺鈿の技法で草木・虫・鳥を可憐に表わした^{くわのきもくがの}桑木画碁局。沈香・黒檀・象牙・金・^{すず}錫などを^{じんこうもくがのはこ}はめ込んだ^{ろうけちのびょうぶ}沈香木画箱。聖武天皇の身の回りにあった^{おうむ}鸚鵡や鷹を描いた^{ろうけちのびょうぶ}鵲縹屏風など、天平文化の粋を凝らした品々も出陳されます。かなな・きり・やすりなどの工匠具が出陳されるのは、正倉院宝物の懐の深さを示しています。日本最古の戸籍のひとつが57年ぶりに公開されるのも注目されることでしょう。

文化財指定制度100周年記念

特別陳列「春日信仰の美術」

11月29日(土)～12月21日(日)

奈良では12月17日に春日若宮の「おん祭」が催されます。この「おん祭」にちなんで当館では、毎年12月に春日曼荼羅の特集展示をおこなってきました。

今年からは内容をより充実させ、特別陳列として、館藏品・寄託品を中心に、春日信仰に関する作品を展示することになりました。

春日神鹿関係、舍利・宝珠関係、宮曼荼羅系、本地仏など、春日信仰の種々相を一覧していただき、春日信仰への理解をさらに深めていただけるものと思います。

なお、今年は春日大社より、古神宝の名品を特別出陳していただきます。

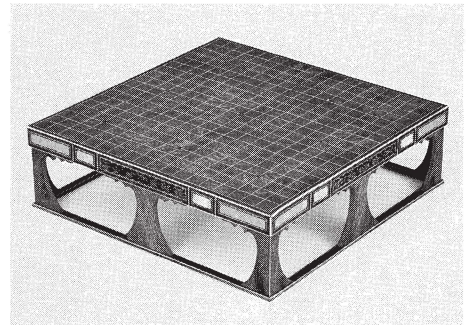
平常展「仏教美術の名品」

11月29日(土)～12月21日(日)

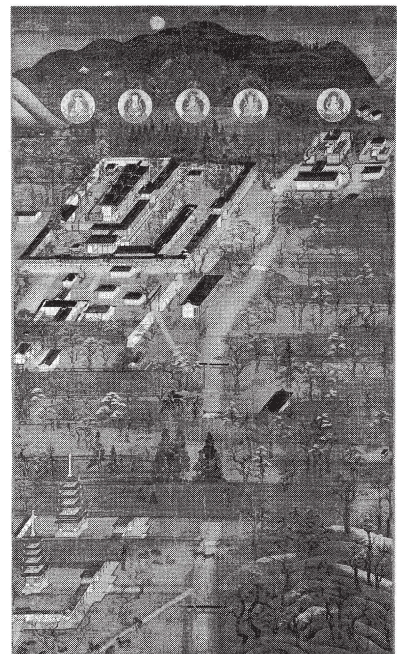
飛鳥時代から連綿と続く仏教美術の名品を集めて紹介しています。当館の館藏品・寄託品の中から、国宝・重要文化財を含む優品を、彫刻・絵画・書跡・工芸・考古の各部門に分けて展示しています。



藤原公真跡屏風帳



桑木木画碁局



春日宮曼荼羅 (南市町)

主な展示品

第49回 正倉院展

10月25日(土)～11月10日(月)

七条 褐色羅袈裟(羅の七条けさ)、臈纈屏風<鸚鵡><写真><熊鷹>(ろうけつ染めの屏風)、天平宝字二年十月一日献物帳(藤原公真跡屏風帳)、*花氈(フェルトのしきもの)、*色氈(フェルトのしきもの)、出蔵帳(聖武天皇御結納品出蔵目録)、出入帳(宝物出入の記録)、正倉院古文書正集 第四十二卷(豊後国正税帳)、*正倉院古文書正集 第三十二卷(出雲国大税脈帳) 歴名帳)、正倉院古文書正集 第二十二卷(御野国味蜂間郡春部里戸籍)、*統修正倉院古文書後集 第二卷(讃岐国戸籍)、統修正倉院古文書後集 第三十三卷(造東大寺司告朔解案)、*統修正倉院古文書 第四十二卷(民部省三月粮文ほか)、東南院古文書 第四櫃附第六卷(十市郡司売買地券文ほか)、雑色緇綬帯 付組紐(組紐の帯)・水精長合子(腰かざり)・黄楊木把鞘刀子(小刀)、碧瑠璃小尺・黄瑠璃小尺(腰かざり)、水精魚形(腰かざり)、呉竹鞘御杖刀(しこみ杖)、黒作大刀・黒作大刀模造、緑地錦几褥(机のうわしき)、十二支彩絵布幕<龍図><鳥図>(十二支の幕)、*緋纈・緋纈模造、赤緑継分綾残片、縹纈布袍(板締め染めの上着)、雑帯残欠(組みものの帯)、華鬘残欠、彫石尺八、檜和琴 付瑤瑠絵、三十足几(卯日杖の机)、黄地花文臈纈羅(卯日杖の机の覆い)、椿杖(卯日杖)、瑤瑠八角杖(べっこうの杖)、錫杖(仏具)、漆 錫杖箱、漆柄塵尾(仏具)、金銅柄塵尾(仏具)、白銅三鈷杵(仏具)、金銅花形合子(すかしぼりのふたもの)、平螺鈿背円鏡(らでんかざりの鏡)、漆皮箱(鏡箱)、花鳥背円鏡 付緋纈帯・題箋(花鳥文様の鏡)、漆皮箱(鏡箱)、*漫背円鏡(素文の鏡)、漆四合香箱残欠、漆花形箱、九重漆箱(こだんす)、黒柿蘇芳染金銀山水絵箱(献物箱)、沈香木画箱(献物箱)、粉地彩絵几(献物几)・白橡綾几褥(机のうわしき)、桑木木画碁局(寄木細工の碁盤)、紫檀金銀絵書几残欠(書見台)、多賀彌(工匠具)、打鑽(工匠具)、鑽(工匠具)、鉋(工匠具)、錯(工匠具)、刀子(工匠具)、*庖丁、黄熟香<蘭奢侈>(香木)、全浅香(香木)・牙牌(象牙の札)、*木香、*麝香皮、丁香・*丁香香袋 付木牌、*蔓衣香、白石火舎(大理石の香炉)、佐波理合子(さはりの香合)、白銅柄香炉 付心葉形(柄つきの香炉)・漆柄香炉箱、*大乘阿毘達磨雜集論 卷第十一(唐経)、*大集月蔵分 卷第六(光明皇后御願経)、*仏本行集経 卷第二十六(称徳天皇勅願経)

<*は初出陳>



臈纈屏風 <鸚鵡>

平常展「仏教美術の名品」

11月29日(土)～12月21日(日)

【彫刻】

◎銅造誕生釈迦仏立像(正眼寺)、◎銅造誕生釈迦仏立像(悟真寺)、●銅造誕生釈迦仏立像・灌仏盤(東大寺)、◎木造釈迦如来坐像(法隆寺)、◎銅造薬師如来立像(般若寺)、木造阿弥陀如来立像、木造阿弥陀三尊像(峰定寺)、◎木造阿弥陀如来坐像(安楽寿院)、◎木造菩薩立像(金竜寺)、◎銅造弥勒菩薩半跏像(神野寺)、◎木造勢至菩薩立像<六観音のうち>(法隆寺)、◎木造十一面観音立像(松尾寺)<写真>、◎木造准胝観音立像(常盤山文庫)、◎木造地藏菩薩立像(東大寺)、◎木造地藏菩薩立像(春覚寺)、◎木造不動明王坐像(正寿院)、◎木造不動明王坐像(園城寺)、木造愛染明王坐像(当館)、◎木造十二神将立像(室生寺)、◎木造閻魔王倚像(金剛山寺)、◎木造伎楽面(東大寺)、◎木造舞楽面(手向山神社)、◎木造行道面(浄土寺)、◎木造飛天(興福寺)



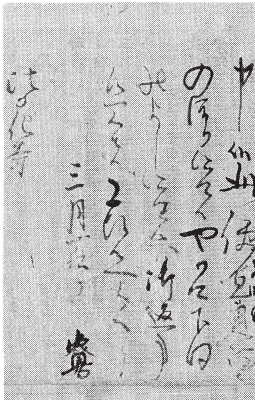
◎木造十一面
観音立像
(松尾寺)

【絵画】

釈迦三尊十六羅漢像(海住山寺)、◎観経十六観相図(阿弥陀寺)、◎二河白道図(雲辺寺)、三千仏図(海住山寺)、◎閻魔王図(長泉寺)、◎法然上人行状絵(奥院)、●六道絵<阿鼻地獄・人道不浄相>(聖衆来迎寺)、◎法華曼荼羅(松尾寺)、◎五大力吼像(一乗寺)、◎五大虚空蔵菩薩図(大覚寺)、◎愛染明王像、●十二天像<梵天>(西大寺)、●天台高僧像<伝教大師・聖徳太子>(一乗寺)、◎聖徳太子像(観音寺)、◎叡尊像(新大仏寺)、◎心地覚心像<一山一寧賛>(興国寺)、◎夢窓国師像(妙智院)<写真・部分>

【書跡】

◎叡尊自筆書状<三月十九日付>(西大寺)<写真・部分>、◎叡尊自筆書状<三月廿一日付>(西大寺)、西大寺別当乗範書状(西大寺)、西大寺別当乗範置文案(西大寺)、◎春日権現講式(高山寺)、◎地藏講式(笠置寺)、◎弥勒講式(笠置寺)、華手経卷第十二<五月一日経>(当館)



◎叡尊自筆書状
三月十九日付 <部分>
(西大寺)

【工芸】

◎金銅火焰宝珠形舍利容器(海龍王寺)、●金銅透彫舍利容器及内容器(西大寺)、黒漆螺鈿卓(東大寺)、●金銅迦陵頻伽文華鬘(中尊寺金色堂)、◎金銅種子華鬘(当館)、◎金銅尾長鳥文華鬘(細見美術財団)、◎金銅蓮華文透彫華鬘(神照寺)、金銅輪宝羯磨文透彫幡、竹製花籠(性海寺)、◎紙胎彩色花籠(万徳寺)、●金銅宝相華文透彫花籠(神照寺)、銅銀象嵌香炉<金山寺形香炉>(当館)、金銅柄香炉(高山寺)、金銅塔碗形合子、王子形水瓶<承盤付き>(当館)<写真>、王子形水瓶(当館)、王子形水瓶<かぶら形>(当館)、仙蓋形水瓶(当館)、信貴形水瓶、布薩形水瓶(当館)、布薩形水瓶<魚形注口>、八幡形水瓶、堆朱香盆(聖衆来迎寺)、◎金銅宝珠鈴、金銅五鈷鈴(当館)、金銅宝塔鈴(当館)、◎金銅五鈷四天王鈴(弥谷寺)、金銅種子五鈷鈴(当館)、◎金銅五鈷三昧耶鈴(金峯山寺)、金銅独鈷杵(当館)、金銅三鈷杵、金銅五鈷杵(当館)、◎銅鑊(円福寺)、一面器(西大寺)、◎金銅独鈷鈴、◎金銅三鈷鈴、三鈷杵(当館)、金銅五大明王鈴、金銅五智宝冠(当館)、◎金銅宝相華文線刻蓮華形磬(赤松院)、◎銅草花文磬(峰定寺)、◎銅蓮華形磬、銅素文磬(当館)、銅孔雀文磬(当館)、刺繍阿弥陀三尊来迎像(中宮寺)、◎線刻十二尊鏡像(細見美術財団)、◎熊野十二尊懸仏(細見美術財団)、◎阿弥陀如来鏡像(当館)、蔵王権現鏡像(当館)、阿弥陀如来懸仏

【考古】
●三重・朝熊山経ヶ峯経塚出土品<銅経筒2口、銅鏡2面>(金剛証寺)、和歌山・粉河経塚出土遺物(当館)、◎石製弥勒如来坐像<長崎・鉢形嶺経塚出土>(当館)<写真>、◎伝福岡県出土経塚遺物(当館)、銅経筒<平治元年銘>(当館)、飛鳥文陶製外筒(当館)

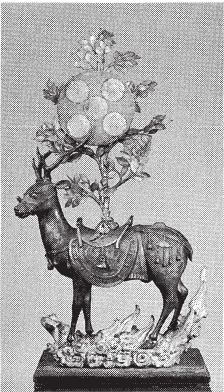


◎石製弥勒如来坐像
(当館)

特別陳列「春日信仰の美術」

11月29日(土)～12月21日(日)

●本宮御料古神宝(春日大社)、●若宮御料古神宝(春日大社)、春日若宮御祭図屏風(奈良県立美術館)、鹿島立神影図(当館)、◎五輪塔嵌装舍利厨子(不退寺)、春日鹿曼荼羅(当館)、春日鹿曼荼羅(西城戸町)、◎春日神鹿御正体(細見美術財団)<写真>、四方殿舍利厨子(能満院)、春日神鹿舍利厨子(当館)、宝塔嵌装舍利厨子、春日龍樹箱、春日宮曼荼羅(南市町)、春日宮曼荼羅(当館)、春日名号曼荼羅、春日曼荼羅彩絵舍利厨子、南円堂曼荼羅(長谷寺)、春日社寺曼荼羅(当館)、◎春日本迹曼荼羅(宝山寺)、春日赤童子像(植槻八幡神社)、十一面観音立像(当館)、春日毘沙門天曼荼羅(当館)、春日地藏曼荼羅(当館)、◎春日浄土曼荼羅(能満院)、千体地藏図、千体地藏等厨子屏絵



◎春日神鹿御正体(細見美術財団)

蘭奢待(黄熟香)について

昨秋、朝日新聞が「正倉院宝物ベスト10」という面白いコラムを載せました。3人が記者のインタビューに答えているのですが、話をベスト1だけに絞ります。

まず河田貞さん(帝塚山大学教授／元奈良国立博物館学芸課長)は、螺鈿紫檀五絃琵琶を選びました。高校の教科書にも写真が必ず出ている有名な琵琶。撥受けの部分には、ラクダに乗って琵琶を弾く人物が螺鈿で表わされています。おそらく遣唐使が唐から持ち帰ったものでしょう。シルクロードへのあこがれをかきたててくれ、いかにも正倉院宝物といった感じがします。予想通りの第1位というところでしょうか。

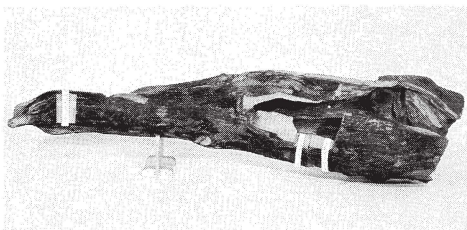
次は私。私が選んだベスト1は赤漆文観木厨子でした。これは、天武天皇から持統・文武・元明・元正・聖武・孝謙という歴代の天皇に伝えられた厨子です。光明皇太后によって大仏に献納された時、中には雑集(聖武天皇筆)・楽毅論(光明皇后筆)・王羲之の書法20巻・撥鏤尺などが入っていました。この厨子は、数多くの正倉院宝物のなかで最も由緒正しい品です。そこを評価しました。美しい木目のある檜を蘇芳で赤く染め、がっしりした素朴な造り。光明皇太后が献納した時に、すでに「古様作」と言われていた厨子。天武朝は、天平時代の人々にとっても、すでに遙かな時代だったのでしょうか。

最後は東野治之さん(大阪大学教授)。東野さんは蘭奢待をベスト1にあげました。蘭奢待の正式な名称は黄熟香。大きな香木です。「蘭奢待」の文字には「東大寺」の3文字が隠されています。東野さんが蘭奢待をベスト1にあげた理由は、近代以前から名宝とされていたからだそうです。東野さんは、正倉院宝物を近代まで保存させた要因として、①東大寺の権威 ②宝物の価値の忘却 をあげています。「宝物の価値の忘却」は興味深い指摘です。東野さんは正倉院宝物について、「中世から近世にかけて世間の関心をひいたのは、蘭奢待などに代表される極く一部にすぎなかった」とも書いています。室町時代の人たちに「正倉院宝物ベスト10」のアンケート調査をすれば、ベスト1は間違いなく蘭奢待であったと、私も考えています。

正倉院宝物への関心は、時代と共に変化していきました。はじめは葉。平安時代初期には中国の文物への関心が強くなり、宝物は次々に内裏へ借り出されました。そして、そのまま返却されなかったものも少なくありません。香道が盛んになった室町時代以降の関心の的は、なんといっても蘭奢待です。足利義満・足利義教・足利義政・織田信長・徳川家康など、時の権力者がこれを載ったこともよく知られています。近代に入ってから、明治10年(1877)に明治天皇が載らせています。

では、蘭奢待はなぜこれほど関心を集めるようになったのでしょうか。香木としてのランクが特に高いわけではないようです。理由は案外、あの大きさかもしれません。

近年は、東南アジアから沈香などの香木が統続とわが国へ持込まれています。先日、某所でいくつか見る機会がありましたが、40センチほどのものが数百万円もするのは驚きました。蘭奢待は156センチ。興福寺の阿修羅像とほぼ同じ大きさです。こんな大きい香木は他にどこにもなかったのでしょうか。



蘭奢待(黄熟香)

至徳2年(1385)8月29日、足利義満は東大寺尊勝院において正倉院宝物を拝見し、基石3個と沈香2切を手に入れました。この沈香が蘭奢待です。永享元年(1429)9月には、足利義教が東大寺西室で正倉院宝物を拝見し、基石と沈香を手に入れました。義満の先例にならったことがわかります。寛正6年(1465)9月、今度は足利義政が東大寺西室で正倉院宝物を拝見し、「両種の御香」を載りました。「両種の御香」とは蘭奢待と全浅香のこと。載ったのは、いずれも1寸四方が2

切、5分四方が1切。そして1寸四方の1組は宮中に献じられ、もう1組は義政が、小さい5分四方は東大寺別当がわが物としました。

天正2年(1574)3月28日、織田信長は多聞山城(松永久秀が築いた城。現在は城跡に奈良市立若草中学校が建っている)に蘭奢待を運ばせ、東大寺僧の立合いのもと、1寸四方のもの2片を載りとらせました。信長はこのうちひとつを正親町天皇に献じ、もうひとつは津田宗及と千利休に分ち与えています。このとき信長は、全浅香と木画紫檀菜局(基盤。足利義満以来、宝物への関心は香木と囲碁に集中している)も多聞山城に運ばせましたが、それらは一見の後に返納しています。この時の経緯は、正倉院の開封にあたった東大寺上生院の浄実が記した『載香記』に詳しく、信長の強引な要求に東大寺僧が狼狽した様子がよくわかります。

正倉院展講座

- 10月25日(土)「正倉院の香」
11月1日(土)「正倉院文書を味わう」
11月8日(土)「正倉院宝物にみる雑密系の法具」
- 大阪大学薬学部助教授 米田 該典
宮内庁正倉院事務所保存課調査室主任研究官 杉本 一樹
奈良国立博物館工芸室長 阪田 宗彦

午後1時30分より、奈良国立博物館講堂にて。聴講無料。ただし先着200名。

ギャラリートーク

- 12月10日(水)「春日信仰の美術」
- 資料管理研究室長 中島 博

午後2時より、新館陳列室にて。入館者の聴講自由。

ボランティアによる解説

8月1日(金)より、ボランティアによる作品解説が始まりました。
原則として毎日4度(10:00、11:00、14:00、15:00から約30分間)、陳列室または講堂でおこないます。
団体・グループ鑑賞の方々と、上記時間以外に解説を希望される場合は、新館入口正面の受付カウンターにお申し出ください。

親と子の文化財教室

- 10月11日(土)「聖徳太子はどんな字を書いたのか」
11月8日(土)「飛鳥時代の寺院」
12月13日(土)「飛鳥時代が今日に語るもの」
- 〈対 象〉小学5・6年生、中学生および保護者等。
〈時 間〉午前10時から12時。
〈場 所〉奈良国立博物館地下ホールまたは講堂
〈定 員〉100名(先着順)
〈参 加 費〉無料
〈講 師〉奈良国立博物館研究員および学習普及専門官
〈申込方法〉電話で、住所・氏名・学校名・学年・電話番号・同伴する保護者の氏名・実施日を記入のうえ
〒630奈良市登大路町50 奈良国立博物館 親と子の文化財教室係
電話0742-22-7771までお申し込みください。



開館時間 午前9時より午後4時30分まで(入館は午後4時まで) 正倉院展は別掲
10・11月の金曜日は午後8時まで(入館は午後7時30分まで)

休 館 日 月曜日(月曜日が祝日または振替休日の場合は開館し、翌火曜日が休館)

観覧料金 毎月第2・4土曜日は、小・中学生無料(正倉院展を除く)

正倉院展		大 人	高・大生	小・中生
	一 般	830円	450円	250円
	団 体	560円	250円	130円

平常展		大 人	高・大生	小・中生
	一 般	420円	130円	70円
	団 体	210円	70円	40円

- *団体は責任者が引率する20名以上
- *正倉院展については土、日、祝日は団体の取り扱いを致しません。
- *特別陳列「春日信仰の美術」は平常展料金で観覧できます。

『奈良国立博物館だより』は、1・4・7・10月に発行します。郵送をご希望の方は、何月号かを明記し返信用封筒(80円切手貼付、宛名明記)を同封して、当館の普及室にお申し込み下さい。

〒630 奈良市登大路町50 電話0742-22-7771 FAX0742-26-7218 テレホンサービス0742-22-3331 奈良国立博物館
ホームページ <URL> <http://www.narahaku.go.jp/>